

PT Vol.25

¥0

はえ大通信

こえとことばとこころで  
草の根マガジン



特集

科学

と

ア

ト

木ノ下智恵子 神戸アートビレッジセンター美術プロデューサー

ぷう吉 エンターテイナー

森洋久 大阪市立大学大学院文学研究科文学部助教授

橋本敬 進化を味わう複雑系研究者

佐藤宏道 大阪大学医学系研究科教授

野村誠 音楽家

アサダワタル 大和川レコード

上田假奈代 問う詩人/詩楽家

科学を語る8人



特集

# 科学アート

「科学」とは定めるもの  
「アート」とは想うもの  
「科学」と「アート」は近いのか？遠いのか？

突き詰めれば「科学」を想い  
「アート」を定めてゆくこともあるだろうが  
日々、科学やアートをながめたり  
一緒に日向ぼっこする8人に聞く、「科学とアート」とは

PT Vol.25  
科学アート

## 【科学/アート】の未知で魅力的な機能不全を回帰する!?

木ノ下智恵子 [神戸アートビレッジセンター美術プロデューサー]

ここ数年、私が妙な違和感を感じている出来事…。

テレビのバラエティー番組などでタレントがしゃべる速度と同時に、その言葉をテロップに写し出す手法がやたらとウルサイ。好奇心旺盛なはずの芸術系学生と物事を見聞きしても大した反応が無かったり、容易く他人に答えを求めるような質問があって空しい。科学技術の申し子世代は、喫茶店などで直接向き合っている人よりも携帯電話の向こう側の人に繋がりを持とうと必至な姿が奇妙…等々。

一見、何の共通点も無くて訝しく思われる雑感を並列して、その根拠を探ってみると、いずれも、自身の頭と心と体で感応/熟考する深度が浅く、想像と創造力が低下していると実感させられる出来事、かつ、人とのコミュニケーションも何らかのメディアを介した手段が常套句になりつつある、という現象とはいえないだろうか。

自然物以外は全てが科学物質と言っても過言ではない世の中に生きる私たちは、万物創世の術=科学(技術)によって、大きな力を得たか

もしれないが、人間にとって本質的で大切な何か退化しつつあるのかもしれない…。

一方、最も個人的で自由な創造と想像が売りのアートにも、まちづくりや医療や福祉や都市政策の一環といった何かを達成するための手段として機能することが前提で、アカウントビリティだのアウトリーチだの、やたらと説明義務を求める節がある。確かに公的資金の活用や会社組織でのアートは、ある一定の大義名分は不可欠かもしれないが、個人単位が本来のアートでは、もう少し、価値基準のグラデーションが許容されても良いのでは？

間違いや答えが無く、機能しなくても良い存在を認識して、分らないことの魅力と不確かさ故の「なぜ？」に関する自問自答と真理追求のために、とある仮説を積み上げて行く。という私を生きる術の鍛錬がゾンザイになっている気がしてならない。

せっかくのオールマイティーな【科学/アート】を活かすべく、未知なるモノに果敢に挑む欲望を持ち続けていきたいと思うのは私だけだろうか…。

[SCIENCE]

[ART]

## ためになる 星の話

ふう吉 [エンターティナー]

夜空の星は、核爆発で燃えてます。金將軍は外交の為、核を用いますが、星が核爆発するのは自分の重さを支える為です。

例えば膨らんだゴム風船。ゴムは縮もうとします。中の空気がそれを支えて、風船の形を保ちます。星も同じで、何もないと自身の重さで縮んで潰れる。それを内部の核爆発で押し返して支えとる。

では核爆発で何が起ってるか？水素という軽い原子達が合体し、ヘリウムという少し重い原子になる。その過程で莫大な光と熱を生む。これが核爆発で、核融合と呼ばれます。星の水素が全て核融合すると、次はヘリウムが核融合して爆発を続け、星は体を支える。するとヘリウムより重い原子が生まれ、次はこいつがヘリウム無き後、核融合を起す。この過程を繰り返し、内部で炭素、酸素とい

ったより重い原子を育てつつ、星はその形を保つ。

やがて核融合で鉄ができます。鉄は核融合が苦手なので、星は自分を支えるための爆発を起こせず、潰れて飛び散る。星の死です！内部の原子達は宇宙に放出され、塵となり、また集まって星になったりします。

鉄や酸素、炭素ってそこら中ありますが、実は星の燃焼でしか作れません。地球や我々を構成する原子は、無数の星の一生をかけて生み出されたものなんです！壮絶な星の生と死が、僕らの存在に深く関係している。

原子レベルで刻まれた星の記憶が、お前も何か生み出せと囁きませんか？星から創られた僕達が創作欲求を持つのは当然なんです、きっと。



神戸芸術工科大学大学院修了。最近の活動では、大学の知のリリースを活用した社会学連携事業として、中之島新線工事現場での「ラポカフェ」プロジェクトを実施。現在、大阪大学コミュニケーション・デザインセンター特任講師、京都産業大学等々の非常勤講師、神戸市政策提言メンバーを務める。



香川県出身。東京大学大学院理学研究科卒。主な研究テーマは中性子星、ブラックホール連星における潮汐破壊現象の一般相対論的数値的研究。現在は中ボンレコードに所属。エンタテイメントクリエーターとして活躍中。12月11日に「コロム」で人形劇する予定。



# 溶解する 自己

森洋久 [大阪市立大学大学院文学研究科文学部助教授]

前世と来世について考えてみた。一人の人間に前世と来世があるということは、前世と来世で結ばれる人間の連鎖、あるいは動物も巻き込んだ一本の連鎖が出来るといことだ。それを輪廻というのだろうか。もし前世と来世、輪廻転生を信じるならば、この連鎖の数は、過去から未来にかけて常に一定の数であるはずだ。人間あるいは動物の数は増えることもなく減ることも無い。もしたとえこの世にお目見えせず、お休み中の連鎖があるとしても、ある一定の誤差を含んだ範囲で個体数は上限するはずだ。しかし、進化論によれば、おおよそ四十億年前の地球上には生物は居なかった。その時点から、確実に動植物の個体数は増えているのであるから、前世と来世、あるいは輪廻転生という概念は科学的には成り立ち得ない。

しかし輪廻転生を間違っているとこの理屈の出発点にある「個体」という概念は無条件に信じてよいものなのだろうか。私は私であってあなたではなく、あなたはあなたであって私ではないということは、生物全般を見渡してみると自明とは言えないようだ。ウツボはザルで漣して、再び水に戻すと、ばらばらになった細胞が再編され、新しい個体が生まれてくる。プラナリアの体は二つに切断すると、それぞれが別々の個体になる。孟宗竹は全世界同一の遺伝子の個体である。人間の個体はどうか、その中に宿る自己は？

去る十月七日、船場建築祭という大阪市立大学アートカフェと朝日新聞の共催するイベントがあった。コルムの方々にも様々なご協力をいただき感謝にたえない。その企画の

なかで私の担当は、昭和二年に建設され、現在は通常のテナントビルとして使われている四階建ての芝川ビル全体を使って、環境音の展示+演奏会を行うことだった。花嫁学校として建設され、当時としても現在でも斬新なデザインの建物である。

本番五分前、演奏家、ダンサーおよびスタッフはビルの各階でスタンバイしていた。そのとき、スタッフのレシーバが鳴り「五分押しをお願いします。」と女性の声で連絡が入った。「了解。」「了解。」「レシーバを握る各人の軽快な声が入ってくる。午前十一時五分、予定より五分遅れて、ビル全体が音楽と踊りに包まれた。

昼休みの控え室でスタッフの一人が言った。「五分押ししたのは、大西さん、準備が遅れましたか。」

「いや、私はオンタイムでスタンバイしていましたよ。演奏のほうでは……」  
いやはや、「五分押し」の連絡を入れた張本人が居ない。全員が顔を見合わせた。

その日、その他にもいくつかの不可解な出来事聞いた。かつての花嫁学校の生徒が戻ってきたのだろうか。彼らのなかの誰かが五分遅刻したのだろうか。スタッフの意識が高まってくると、会ったことも無い彼女らを感じ始める。やがて、出し物は思いも寄らなかった方向へと展開を始める。スタッフや奏者の自己の殻は溶解し一体となる。ふっと私は「オペラ座の怪人」を思い出した。「怪人」の存在こそアートには不可欠なのかもしれない。



森洋久 ● hirohisa mori

1968年ポストン生まれ。1994年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻博士課程退学。同大学博物館助手、国際日本文化研究センター助教授を経て現在に至る。地理情報学専攻する。1999年よりひとりひとりの身の回りの地図を一つ一つつけていき、やがては地球を作るというGLOBALBASISプロジェクトを展開中。http://www.globalbase.org/

# 「科学とアート」と「技術とアート」

橋本敬 [進化を味わう複雑系研究者]

「科学とアート」やそれに類する企画展覧会を見ると、しばしば失望することがある。そういう企画展で展示される作品には、電子情報機器やヴァーチャルリアリティ技術などを応用してアート作品を作ってみました、というものが多いいだ。すなわち、多くの場合「科学と」というより、「技術とアート」になっているのである。

新しい技術が芸術を革新させて来たのは別に最近に始まったものではない。近いところでは、第七芸術と呼ばれる映画や、光を乾板に捉えようとした写真、古典的と考えられる絵画であっても絵の具やキャンバスに塗る下地など。ある時は新たに現れた技術から新しい芸術が創造され、また、ある時は作家自身が自分の伝えたいことをうまく表現できるように技術を探求してきた。

新しい技術を芸術に応用しました、というだけでは、新しいおもちゃを与えられた子どものようなもので、面白くはあるが、表現されているものごとに深さを感じることは少ない。子どものようにイノセントな、日常にまみれた大人を驚かせる表現ができていなければいけないけれど、そういうのはまれだと言わざるをえない。

中谷宇吉郎という科学者がいた。彼は、自然が作り出す美しい雪の結晶パターンを科学の対象とし、空がどういう状態であれば雪の結晶がどんな形になるかを世界で初めて明らかにするという成果を得た希有な科学者である。中谷は『科学の方法』というエッセイで、物理学のような自然科学がどのように自然を捉え、

法則を作り出してきたかを考察し、次のように書いている。

『こういうふうと考えて来ると、自然界には、固定した実態が、どこかにかくされていて、それを人間が科学によって探していくうちに、うまくいったときには見つけることができる、というようなものでないことが分る。科学が発見した物の実態もまた法則も、こういう意味では、人間と自然との共同作品である。』

科学も芸術も、人間が自然を含む世界と関わって生まれてくる共同作品だろう。科学は世界の普遍的構造を追求しようとするスタンスを持つ。一方、芸術では、一回きりの経験に現れる世界の姿、それを経験する主体側の意味に重要性を与え、作家の主体性、オリジナリティ、革新性が問われる。両方のスタンスがわたしたちの生を豊かなものにし、世界の見方を深める。芸術により得られた世界や経験の見方が、科学を豊かにすることがままあり、芸術的な世界認識に対しても科学の世界認識が影響を与え、より深い経験の意味づけを与えることもある。

そのような、新しく得られた科学による自然や世界の認識から何かを得て、より深めるものになっているような、科学と芸術の共鳴する作品こそが、「科学とアート」と呼ばれる資格があるものだろう。もちろん、単に科学に影響を受けました、ではアートにならない。科学が見いだした世界の姿から何を得るか、どう伝えようとするかは、作家の主体性に委ねられている。そこにこそ、「科学とアート」の結びつき・共鳴の深みが出てくる。



橋本敬 ● takashi hashimoto  
ことはとこごとと社会の進化ダイナミクスに興味を持ち、コンピュータの中に世界を作った動かすことで解明しようという構成的アプローチにより研究をしている。最近では、人間が生きていく上でなぜか見いだしてしまう「違和感」を、その能力として積極的に捉える「境界知」という考えを、作家の瀬名秀明氏、脳科学者の梅田聡氏とともに提唱し、深めようとしている。その議論をまとめた『境界知のダイナミクス』を近日中に上梓予定。

[SCIENCE]  
[ART]

[SCIENCE]  
[ART]

## 「科学とアート」のイベント開催！！

科学とアート・ウォーミングアップ企画「みんなで大阪市立科学館へ行こう！」  
世界一のプラネタリウムもあるらしいよ  
12月10日(日) 13:00 実費  
集合場所:大阪市立科学館入り口前に13:00集合!  
案内人:飯島秀司 ほか  
大阪市立科学館 <http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/>  
大阪市北区中之島4-2-1 06-6444-5656



ぼえ犬通信 「科学とアート」





# 科学もアート

佐藤宏道 [大阪大学医学系研究科教授]

科学もアートも個人あるいはグループであるテーマを表現するという点で似たようなものだ。子供の頃から私は大きな組織の中で仕事をしたいとは思わなかった。能弁ではないが表現することは好きで、絵を描き、彫塑を習い、詩も書き、演劇もやったが、これらについて私はニセ物らしかった。何でも中途半端にしかやらない。これでは食えないと、気楽な科学をやることにした。これは事実と解釈を他の人に受け容れてもらえるように表現する世界であり、方法論が異なってもやはりアートと同じかも知れない。それでも方法論の違いは見かけを決定的に変える。脳のことを調べていると、心について考え直す。

さて「ポエト通信」に寄稿するのは嬉しい。「月に吠える」の萩原朔太郎は前橋中学(前橋高校)の先輩だ。朔太郎が見、歩いたはずの、利根川、広瀬川、新前橋駅、敷島公園、前橋公園、そして上州の山々を、私も見、歩いて育った。私が小学生の頃、毎日敷島公園の松林で大きな犬と肩に止まらせたカラスと共に、大きな声で叫び、数百羽の鳥を集めてエサを撒いていた「カラスのおじさん」は極道者で、利根川で悟りを開き、NHK「それは私です」という番組にも出たが最後は利根川に入水して死んだ。昔の田舎では珍しい女浮浪者の「敷島タ

ーザン」は私たちが敷島公園で遊んでいるとボコをまとった姿を現し、誰かが捨てたリンゴの芯を三日月池で洗って食べ、私たちを驚かせた。私たちは彼女が現れると「敷島ターザンが来たあ!!」と叫んで逃げた。この公園には朔太郎の「帰郷」の詩碑があり、子供の頃の私の日課は、敷島浄水場を通り、その詩碑まで犬の散歩をしてから玄関前を竹箒で掃くことだった。

小学校低学年の頃の通信簿のコメント欄には私について「授業中に教室内を歩き回る」とか「授業中に突然奇声を発する」とか書かれていた。私は担任の女教師と心を通わせることが出来なかった。私は成人するまでに3度も自動車にはねられ、1度川で溺れ、1度海で溺れている。母親の胎内にいたときに流産しかけたことが原因かと思っていたが、遺伝子のせいかもしれない。今なら、ADHDと言われて母親も納得させられるのだろう。しかし、私が育った頃は「落ち着かない子」、「馴れな子」と寛大な評価だった。それで「普通の人」でやってこれた。私に病名をつけなかった親や周囲の人たちに感謝したい。おかげで私は科学者面をしているが、アートのような科学に憧れている。ややこしい世の中を単純化するためにレットテルを貼らぬように。

[SCIENCE]  
[ART]

イスとかカップといったものは形が全然違って恐竜用。でもトランジスタは私たちの宇宙にあるものとあまり違わない。「情報を高速で処理する」という目的にかなう形というのは、物理法則が同じである限りどの宇宙でも似通ってくるはずで、こうしたものは時間を追うごとに、より多数の宇宙に現れるようになる。人間の世界にも、知的恐竜の世界にも、知的植物の世界にも。それはあたかも「多宇宙の中で結晶が析出してくるような」感じ、なんてことを言うらしい。ここまでイメージできるのが、いいなと思います。こういった概念は、一神教の人には認められにくいのか、数学的に完全に定式化できるのに、人間がないそうです。ドイツは「平行する宇宙で計算を分担する」数学を使えば、新しい世界観、新しい物理学理論が生まれてくる、という未来まで妄想して、「量子コンピュータ」という概念を考えたい。そういう未来を妄想できる力と現実社会と向き合うことの二つをどう両立するか。それが、ぼくたちの生きていくための工夫のような気がします。



佐藤宏道 ● hironichi sato  
1956年生まれ 大阪大学医学系研究科教授。専門は視覚神経科学。子供の頃は様々な夢を見ていたが、現実とは厳しすぎなく言い切る。私が子供の頃はできなかったこと、親父の十割蕎麦だぞ。



野村誠 ● makoto nomura  
作曲家。音楽と人間の可能性を信じている。最近野村幸弘と音楽の映像作品をいっぱい作っている。楽譜を書くという力の力も信じているし、音を発するということの力も信じている。だから、人と接し、音を

# 個人を科学するカタチとして

アサダワタル [大和川レコード]

「アート」をすることに理由はあるのか。人に「なぜあなたはアートをしているのですか?」と尋ねられた時に、答えは必要か。作品を作る動機は、いわば子供の遊びのように、動機そのものに目的はないのかもしれない。「楽しいから」これが素直な理由だと思う。しかし「楽しいから」からスタートした表現は、やがて個人の関心事を最大限に追求するプロセスを踏むことになり、かつ、作品制作に本気で取り組もうとすればするほど、壮大な道のりとなる。表現するまでのプロセス。これは自然摂理を探究する行為の総体としての「科学」とほとんど変わらないのかもしれない。ただ探究対象

が極めてパーソナルな関心事であること、またその探究で得られた法則が必ずしも万世摂理すべてに通じるものではない「個人の法則」であること。言い換えれば「アート」とは「個人を科学するカタチ」なのかもしれない。逆に言うと「科学」をする動機、それもまた子供の遊びのように、動機そのものに目的はなく、「宇宙に行きたい」とただ素直に思うから「科学」する人生が始まるのであって、それは「いい唄を歌いたい」ということとその発端においてほとんど変わらないのかもしれない。「アート」はそのプロセスにおいて「科学」を内包し、また「科学」はその動機において「アート」をも内包するのだ。

[SCIENCE]  
[ART]

# おおかみ とおぼけちゃん

上田假奈代 [詩人/NPO法人コロールム代表]



3歳の頃から詩人と名乗るのはわけがあって、当時創作した詩の朗読がオープンリールの音源として存在するからだ。テープは実家の押入れに入っており、さしあたって再生装置がないのでお蔵入りとなっている。「おおかみとおぼけちゃん」という詩らしいが、本人はそんな詩をつくったことも覚えていない。先日、母から届いた野菜いっばいの宅急便のなかに古ぼけた一冊のノートが入っていた。その頃の詩が書きとめられた「3歳のわたくし」。なかに件の詩があった。チーズを食べたオオカミがオバケに食べられる。さらに犬も、鬼もオバケに食べられるという内容。オバケはとても小さいが飛ぶこともできるらしい。結末は、オバケのお腹のなかでオオカミと犬と鬼がお話している、というものである。3歳のわたしにとって、恐いものは1オバケ、2オオカミだったようで、他の詩にもオバケはよく登場しており、馬も食べている。「食べられる」ということは死を意味しているはずなのだが、オバケのお腹の中でお喋りしている、というのだから、なんとも微笑ましく、へんてこでもある。3歳の時には「死」という概念を持っていなかった。「生きている」という強い実感に支えられた物語のなかでいつまでも生きつづけ、図々しいほど朗らかだ。それにしても、

オバケとは何だったのだろう。育った奈良の吉野は夜8時9時を過ぎたら真っ暗になる。空と山の稜線の区別のつかない色。ひんやりとした風を運ぶ窓の向こうは夜で、遠くから聴こえてくる鐘の音、木々のざわめく葉擦れの音の間に潜む闇に代表されるような、距離感のつかめない名づけられないものをオバケと呼んだように思う。ところが恐れる闇の渦巻きをひきつって怖がっている3歳のわたしはオバケに親しいのだ。ちゃん付けて呼んでいたりする。いつのまにか、オバケのことを考えなくなった。考えなくなると、オバケは闇のもっと向こうのどこかに行ってしまった。成長に伴う教育や社会の規範がオバケの不在を現すのだとしたら、社会に参加する大人としてその仕組みの隙間、行間にいる沈黙のオバケと交信したい。人々の関係のなかに横たわっている名づけられない何か。溶けたり、発見されたり、発熱したり、開放されたりして、関係が更新されていくとしたら、人とオバケの間でプランコのように揺れている時間は、まぎれもなく生きている時間だ。科学もまた生きている時間に進化をとげるかぎり、おぼけちゃんもあくびをしながら頁をめくるだろう。

アサダワタル ● wataru asada  
大和川レコード名義で、「日常」と「表現」のハザマに巨大な遊園地を作ることを計画。唄を歌います。ビデオでパフォーマンスもします。最近では多く一部の層にイラスト作品が主流。



上田假奈代 ● kanayo ueda  
現代思想8月号に16000字の原稿を書いたからというもの、急に文章を書く翼が軽やかになってきた。本も執筆中。京都新聞から書評の依頼もきたよ。あいかわらず辛いものは食へられないけど。  
<http://booksearch.exlog.jp>

# 科学とアート

野村誠 [音楽家]

科学とアートですか。どちらも妄想を実現して見せることですよね。実際、ぼくの頭の中には妄想がいっぱいあって、それを人と分け合える形にしていくのが仕事です。友人が惚れ込んでいる科学者、David Deutsch。ドイツは、「平行して存在する多数の宇宙で計算を分担する」という量子コンピュータを提唱した人。宇宙(英語でuniverse)。「uni-」は、単一という意味なのに、複数形にしちゃうんですよ。でも、この妄想(=宇宙が平行に多数存在すること)さえ認めれば、「観測していない時には確率的に存在する」という量子力学の甚だ曖昧な主流の解釈と違って、すべてが定式化されて説明がすっきりする理論を作っちゃうと説得力が出る妄想になります。ドイツは、人間でなく恐竜が高度な知的生命体となっている宇宙も実在していて、そこにある



ときどき店にきて いつも紅茶を注文する  
女性がいる ひとりで文章を書いている か  
タロットカードをめくっている

芝居の幕がおりとと カードが全部裏返つたように  
客席にあかりがつく 前の席の人も となりの席の人も  
みずしらずの人たち 席を立ち 帰ってゆく  
まるで 墓参りに来た人のように

4年前に死んだ祖母の骨が まだ家の仏壇にあります

「お墓に入れるか お寺にあづけて 永久にみてもらうかを悩んでいます」  
母からメールが来た

「新しい墓は 吉野に買ってあるんだけどね」と追記がある

吉野の山のだこかの斜面に死者をまつ場所があることを知る

祖母は どこにも属さない人だった

祖母は樺太に渡り、最後の引き揚げ船で戻り、離婚し、養女をひきとつた

養女がわたしの母である

祖母は 戦争のことを多くは語らなかつたが

テレビが 靖国や天皇のニュースをたびたび放映しているのを見て

冷やかな視線をむけていることを 節のある指がテーブルを掴む

祖母は 定年を過ぎても看護士として働いたが

晩年は 病院に入ることを拒み 母と家族が介護をした

臨終の日 祖母のまわりに家族全員が集まつた

意識のない畳のうえの祖母にむかつて わたしたちは

「もう がんばらんでいいんやで

お母さんのところへ行つたらいいんやで」と言つた

わたしの母を生んだ母の母のことだ

呼吸荒く死に近づいている祖母は

生まれる日に近づいているようにもみえた

死んでしまつたものと 生き残っているもの の  
時間の距離を考える

おびただしい数の墓が生まれている

死ぬ前より若い死者と

幾何学のカードを裏返して 数の滲んでゆく時間

これ以上裏がえせないカードと

測りきれない雨粒の数のように

記しきれない文字のように



# ライトハウスレポート最終章

～対話の午後～(第四回)

飯島秀司

前回のコラムから半年以上が経過した。ライトハウスでの時間はつづいている。今も2週間に一度のペースで仮設喫茶チャッピールームに出かける。開始当初の歌声喫茶的リクエスト大会の時期が過ぎ、利用者さんたちと私との関係性に新たなかたちが出来始めていた。

13時30分の仮設喫茶オープンの時間がくると、私はひとりギターを弾いている。ひとりふたりと利用者さんがやってくる。最初はちょっと淋しいが、人と人がいれば、そこには何らかの場が形成される。私はギターを弾きながら、その時ごとの場が内包する"いきたいところ"にチューニングをあわせる。そして、ふと気づいた頃には賑やかにざわめいている。利用者さんは、中途失明の方がほとんどだが、"参加は中途失明の棟だけ"といった限定した場ではないので、普段あまり話をする機会のない人同士が同じテーブルにつくこともあり、若干の緊張感がある時も。視覚障がい者同士の情報交換の場になることもあれば、けだるい午後にただやりすごす為の時間になることもある。

私は一緒に立ち会っているだけだ。ギターの音色と会話のざわめきが、ゆるやかに反応しあうのはなかなか楽しい。利用者さんの方も、飯島のギターはBGMでもなければ、弾き終わる度に拍手を求めら



飯島秀司  
15年ぶりにシマクマガンホーズなるバンドを結成した音楽家。38歳。  
<http://homepage2.nifty.com/simaging/>  
<http://ezman.cocolog-nifty.com>

れるものでないことを理解していて、チャッピールームの2時間が過ぎ、最後の曲「蛍の光」を終えた時にだけ拍手が起こる。当然、私も拍手する。演奏していたのは私だけではないからだ。

利用者さん達の会話に積極的に入っていきようとしていた時期もあったが、今は話に無理して加わらない。その必要がないと気付いたから。ちょっとした楽器を持ち込んで、セッション大会になったことも何度もあった(ただこれは、少々ボリュームがあがりすぎて、会話がしづらくなる為、今はしていない)。あと意外な効能として、私のギターの腕前もあがってしまったようだ。いい練習になったのだろう。

1年半に渡って、チャッピールームではほぼ毎回、素晴らしい時間を過ごすことが出来た。利用者さんたちからの評判も良かったようだ。チャッピールームでの取り組みは、ワークショップをはじめて4年越しの私と施設側の和解を意味していた。

しかし、私はまた苦しみはじめています。ここで起こっていることを繋いでいく先が見えないのだ。(つづく)

## 人類の至宝か運命の人か

泉谷洋平

$$e^{\pi i} = -1$$

泉谷洋平  
フリーランスの地理学者。地理学の他、数学や哲学や社会学などにも関心を持っています。夢は有限のエルデシュ数を手に入れること。  
<http://www.venus.sannet.ne.jp/geophil/>

少し前から「ネイピア数」で検索してブログを訪れる人が急増した。ネイピア数は自然対数の底として用いられ「e」で表される定数のことで、2.7182...と小数点以下が無限に続く数である。

調べてみると、アクセス急増の日に数学を題材にした教養系バラエティ番組があり、これを見た人たちが、昔僕が書いたオイラーの等式についての日記に辿り着いたらしい。オイラーの等式は「e」の他に円周率「π」と虚数「i」との間に成り立つ関係  $[e^{i\pi} + 1 = 0]$  を表した式で、そのシンプルで意外な美しさ故に「オイラーの宝石」「人類の至宝」とも呼ばれる。

自然対数の底を円周率と虚数の積だけ累乗すると-1に等しくなるという、単純だが感覚的に理解しがたい関係。この式を初めて見たとき、世界がすっぴん変わったしまったかのような、神秘的で生々しい衝撃を受けた。テレビで公式を知って同じように感動した人が昔

の日記を見つけてくれたに違いない、と思った。

ところが実態は違っていた。その番組で、「ネイピア数の小数点を辿ると、どこかで自分の誕生日の隣に運命の人の誕生日が並ぶ」という話が紹介されたらしく、よく調べてみると、「ネイピア数」での来訪者の多くはこの話に関する情報を求めていたのである。多くの来訪者を引き寄せたのは、僕を魅了したオイラーの等式の表現しがたい美しさではなく、ネイピア数の世俗的数秘学としての魅力だったのだ。

数学好きな僕は、「ネイピア数 誕生日」などという検索ワードを見るたびに、「もっと神秘的でオモロいもんがあんのにい」と一抹のやるせなさを感じるのである。「語りえない美しさ」の語りえなさ。目下の僕の学問的なテーマでもある。



## ライブラリのなかからわたしの一冊

上田假奈代

### 科学者と詩人

ポアンカレ 著  
岩波文庫 刊 410円  
「なんで?なんで?」をくりかえして  
成長してきたあなたへ:★★★★

このところ、ココルーム事務所では「科学とアート!」という言葉が爆発的によく聞かれる。テクノロジーとアートではない。なにやら深遠な窓辺に腰掛け、流れる雲をみているような感じ。

そんな頃、ミレニアム懸賞問題に設定されているポアンカレ予想を解いたロシアの科学者グリゴリー・ペレリマン博士のことを知った。キノコ狩りに出かけて授賞式に出席できない彼の権威や名声を嫌う人柄やその髭もじゃの写真で盛り上がったはずみで、ネットでみつけたポアンカレの著書「科学者と詩人」。焼き肉をつつき食べながら読んだのだ。

旧仮名遣いで読みすすみにくい。それでもこの本に登場する科学者たちは皆、誠実で謙虚で倫理観高いことが読み



上田假奈代  
詩人。とうとう本作りをはじめた。毎月20枚のペースで10ヶ月続く。今そこにある本一冊の有り難さがよくわかるこの頃。

取れる。キューリー夫妻、ベルトランなど、小学生の頃図書館のある一角を占める偉人伝で読んだ人たちの名がある。

ポアンカレは1854年フランスに生まれ1912年に没している。位相幾何学のホモロジー概念の発見や、ポアンカレ予想、フックス関数と非ユークリッド幾何学との結びつきについての数学的な発見をしたり、また数学研究の心理学的側面の研究にも影響を与えたとされる。が、わたしには何の事やらさっぱりわからない。本書の最後の章ではシュリイ・プリウドムというノーベル文学賞の詩人のことを書いている。ポアンカレはずいぶん彼が気に入っているようで、「『人知の限られた限界を知ったならば、無知に安住するのが最も容易である。そうすれば、空の星をはずしてとることができぬことを苦しまなくてよいように、最高真理に達することができないことを苦しまなくてよい』とシュリイはある青年に忠告をあたえましたが、彼自身はそれに従いませんでした。何故なら彼は詩人だったからです。そして詩人こそ正に星をとりはずそうとして苦しむ人たちだからです。」と記している。

シュリイと同じ様に、数学者であるポアンカレは夜空をみあげ星に思いを馳せ、人間界の倫理と科学の輝きをかいま見たのではないだろうか。

## いらがの繭

横山千秋



横山千秋  
作品制作のプロセスとそこでの人間関係の動きそのものに焦点を当てたプロジェクト「大団円」発起人。2006年度には農作業体験ツアーを企画・実施。

ココルームのスタッフになって約8ヶ月。6m×6mの舞台の上では日々、様々な公演やワークショップ、トークサロンなどが行われる。

自分自身もライブ企画「P.P.P.P.C.B.N」のブックニング担当として、月2~3本のライブをディレクションしてきた。その度に、舞台の上で起こる個人の表現がいかに細く、脆弱なものであるかを痛いほどに認識し、その上で僕は彼らの(あるいは自分の)「表現」とどのように向き合えば良いのかと考える。それはどこへ繋がってどこへ流れて行くのか。そこには発表・散散に起因する自己満足以上の作用はなかったのか。すぐに同じような趣味や感覚を持った人だけで構成される閉ざされた場になりがちなライブハウスのシステムの上で、日々繰り返される「表現」に若干の虚しさや疲労感を感じながらも僕は、一体その先に何を待っているのだろう。

文章を書く。絵を描く。音楽を奏でる。パフォーマンスをする。コラボレーションをする。僕自身も興

味を持ったことには何にでも首を突っ込んできたが、結局特定の手法には定着できず、様々な領域を漂泊している。どこへ行ってもうんざりしたり、つまらなくなったりしてしまう。何らかの作品形態に収斂されていく個人の言葉やメロディやメッセージやそこでの行為の儚さや、時には退屈ささえも認めてしまうからなのかもしれない。

だけどそれでも、僕は未だにそれらを諦めてはいないのだ。作品が発動するその場所が、まだ知らない他者との出会いの場所になり得ること、そして発信者と受け手の双方が、そのことによって新たなフェイズへ接続できる可能性が残されているという、その点には少なからず希望を感じているのだと思う。

これから自分の担当するブックニングライブという仕組みを、少しずつつ捉え直していきたい。閉塞することなく、しかし垂れ流しにするわけでもなく、そこがあくまで疎通のための空間であることを前提として。



# 22,580 何回! どうでもいいことある記念の瞬間!

## イトウタカアキ。探検隊による、「劔リーダー-搜索ツアー」開催!!

先日、恋愛研究会。のリーダーである劔は、参加していたロックバンド、ミドリを脱退し、その勢いで蒸発してしまいました。

殴り書きの置き手紙一枚を残して失踪してからはや一ヶ月、その行方を知る人もなく、広島の開鎖されたドッグパークで放置された犬の世話をして過ごしているとか、実物のマティソン郡の橋を見に行っているとか、様々な憶測が関係者の間で飛び交う中、ミドリ時代の白いアップライトベースと白い衣装がヤフオクに出品されて誰も買い手が付かなかったという噂まで聞かれる始末。

そこでこの状況に闇を煮やした恋愛研究会。不動のエース、イトウタカアキ。は、急遽搜索隊を結成。劔リーダーの発見と保護に向けて動き出したのであります。

リーダー不在の苦しい状況下においても、「西野ヒロシ



劔樹人(蒸発中)  
特殊アートグループ「恋愛研究会。」のリーダーとして、日々どうでもいいことに4割くらいの力で取り組む。  
<http://sutegoro.com/>

キャプテン公演「ロビンエイド2」の2大興行を大成功に収めた恋愛研究会。では、このままだとリーダー不在でも十分やっていけるのではないかと、劔なし崩し的に卒業説も囁かれている段階ではありますが、懸賞金も出ないこの搜索にも恋愛研究会。はなんとなく頑張ります!! ツアー出発はイトウさん(歌謡アリーナ勤務)の入稿が終わる毎月10日近くの休日、とりあえずリーダーの好きだった喜連瓜破のブックオフや北花田のびっくりドンキーあたりからはじめてみようかと思っています。

また、そのうち「恋愛研究会。の、劔はどこへ消えた」も開催予定!! 失踪のあの日を、うたとおしゃべりで振り返ります!! 乞うご期待!!

※劔樹人目撃情報はinfo@sutegoro.comまで。  
特徴は、河童に似ています。

# トモイキ徒然日記



桜井共生  
一応ミュージシャン。割と良い曲を書く。最近、セッションユニットトモイキ十番勝負を始める。コルムではP.P.P.C.B.Nの穴埋めを担当。現在は仕事と引越の両立に悩まつつ忙しく暮らす。

どうしても筆が進まない。というのは嘘。食欲旺盛。ほぼ正午である。出勤一番ノリ。コルムでの業務は大抵スタッフの朝食(一般的には昼食か)を作るころからはじまる。本日は、頼りになる先輩スタッフ・Y氏※1と男二人、厨房にたつ。食材も少ないのでひやむぎをにゅうめんというか、かけそばのように温かいめんつゆ※2で、薬味と納豆、キムチをのっけていただくことに。このキムチ汁が意外と美味なのだが、これをいただいているときにY氏が一言。「これ、「○からん?!」の味がする」「わ○らん?!」の味がする...「わか○ん?!」...懐かしい響きだ。なんだっけ。そう、それはわが母校・立○館大学の東門を出て100メートルほど行ったところにある定食屋の名前であった。そうだ、これはまさしくあの味だ。あのチゲ鍋...格別うまいというほどでもなく、量と安さで勝負する、学校近くにはよくあるタイプの定食屋。他のお店よりはやや遅くまでやっているのがちょっと魅力ではあった。特になんていうこともない店のなんでもない定食の味

がいま、くちの中に広がっているのである。そう言われて懐かしい風味を味わっているとなんだか学生時代を思い出してちょっと感傷的になってきた。なんてことはないんだけど。思わぬところで思いも寄らず、忘れていた懐かしい場所、でもどーでもいい場所。別段思い出深い場所ではない。友人とくだらない話をして食事しただけだ。ただ、そこはかつて僕が生活した一時期の暮らしの一部であったのだ。その点で、なんだか量の隙間に挟まったまま忘れられていた百円玉を発見したような。きょう僕は、なくしていた記憶の欠片を、穴の空いたかつての風景を少しだけ埋めたのだ。どーせまた、すぐに忘れちゃうんだろうけど。

※1 Y氏:先輩スタッフの横山千秋氏(23歳)のこと。僕の大学時代の後輩にあたる。しかしコルムにおいては先輩であり上司である。  
※2 めんつゆ:コルムには大量のめんつゆが保管されており、これがなかなかの埋蔵量で、品質の劣化を防ぐために現在は冷凍保存されている。スタッフに注文すれば1本約2リットルを税込価格100円で販売いたします。お求めやすいお値段です。

## 加久裕子コラム

# 「姉」

加久裕子  
1980年福岡県生まれ、2000年に愛知県で一人暮らしをはじめ、2003年オープンマイクと出会い、今も名古屋を拠点に詩の朗読を続ける。

福岡県の実家に両親と暮らす6つ歳の離れた姉がいる。8つ歳の離れた兄は名古屋に住んでいるということもあり、私は兄の方と話す機会が多かった。今年の夏は加久家初盆で家族、親戚が福岡に勢揃いした。久しぶりに顔を合わす兄や私に話題は集まった。私が話している隣で姉はにこりと笑顔で座っていた。盆が明け、母方の祖母がデイサービスのお泊りから帰ってくるのを皆で迎えた。母の顔をじっと見つめるなり「さびしかった」と祖母が涙を滲ませた。「ごめんね」と私たちは黙ってしまった。その時、姉が祖母を笑わせようとひとりおどけて見せたのだ。瞬間、沈黙がほどかれ皆が笑った。私は姉の行動に驚くとともにすこさを感じた。彼女は実家で祖母の世話を手伝っている。離れて暮らしては解らない大変さだ。その中で祖母とのコミュニケーションから深まった関係。家族想いのやさしい彼女。兄や私のように大胆に行動し都会で暮らしているのとは違って、目立たずにこつこつと働く彼女は、自分に自信がなくなるときがあると私に電話をかけてきてくれたことがあった。私は、私にはない彼女が持っているすばらしいところがあるのだと話をした。そして尊敬していると伝えた。今まで私は彼女を「姉」というより双子のように親しみを持って接していた。私が彼女に相談を持ちかけることは少なかった。今になって改めて姉との関係を、絆をもっと深めたいと考えるようになった。ふたりで祖母をベッドで休ませながら、聴かせてと歌った童謡の赤とんぼ。姉と私の声はとでもきれいに重なった。やっぱり血が繋がっているのだなと感じた。私たちは今でもふざけあって、姉が私の背中に乗り私が姉をおんぶする。ふたり笑う。ピロートークをしながら眠りにつく。離れていても思い合っている。これからもっと姉と話がしたい。

## 大和川レコードの 描き採取られた日常

画:アサダワタル

### お題:4コママンガ



マンガを書かせてもやっぱり天才です。内容に関しては何の説明もないため当然全く理解できません。

## today's 21/365

昼寝はいい。最高や。  
採取日時:2006年10月5日(水) 18:05  
採取場所:コルムカフェ

お客のNくん。疲れていたのか、300円おいてお昼寝を注文した。舞台のまんなかで毛布を抱いて眠る若者の姿。都市の雑踏のなかで、一瞬そつなくて暖かい優しい寝顔だった。

於集電腦女流詩人  
交流向上百花繚乱  
詩的空間月毎更新  
隨時求新同胞以愛

# 蘭

Web 女流詩人の蘭の会

<http://www.orchidclub.net/>  
発行:詩学社  
発行:RADIOS DAYS コルムでも好評販売中



# cocoroomスケジュール

2006.11.16---2006.12.31

## 【cocoroom主催企画イベント】

### ●PPPP.C.B.N. cocoroom booking night

19:00 1500円+1d  
 11/24(金)DoDDoDo×akamar22×yungung、村上さん、コオセキラチヲ、夢想回路 他  
 12/1(金)毛利奈穂子(diadrum)、ヨシオカサトシ(LLama)、末田光里、丸尾丸子(コオセキラジヲ)  
 12/8(金)ROPEMAN(28) 他  
 12/11(月)ふう吉 show、涌井慎、北山真美 他

### ●Books ARCHIVES

20:00 入場無料(要1dチケット500円)  
 11/29(水)第91夜 12/12(火)第92夜  
 上田假奈代による公開小説朗読レコーディングイベント。

### ●上田假奈代の日常きもの指南

19:00 1500円 要予約:コクルームまで(先着2名)  
 11/20(月)、12/6(水)、12/26(火)

## 【おすすめイベント】

### ■「だ・だ・だ・だ 打楽 る・る・る」

11/23(木) 18:00 前売2500円 当日2800円+1d  
 出演:石塚俊明打楽トリオ、るるるふゅーちゃーりんぐ石川浩司

### ■サンクチュアリ(安全な場所)っていったいどやって作るねん?

11/26(日) 14:00 500円+1d  
 坂上香ドキュメンタリー作品「ライフアーズ」に関わるミニ上映会及びトーク企画  
 出演:マーク・フォーセット(アミティfromアメリカ)、倉田めば(大阪ダルク施設長)、坂上香(映像ジャーナリスト)

### ■Front-dash produce vol.7

~早乙女優ひとり芝居~『駈込み訴え』原作:太宰治  
 11/18(土) 16:00~19:00(2回公演)  
 前売2000円 当日2500円(1ドリンクつき) 定員:各回50名  
[http://www.geocities.jp/front\\_dash/](http://www.geocities.jp/front_dash/)

### ■清水艶監督作品「シェアリング」上映会&ミニライブ

~第7回JCF学生映画祭グランプリ受賞記念パーティー~  
 11/19(日) 18:00 参加費:2500円(ドリンク/フード付)

### ■OSAKAインディーズ夜話 ~大阪に住まい音楽で暮らす方法~

11/20(月)、11/27(月)、12/4(月)  
 19:00 無料(1ドリンクオーダー)  
 要メール予約50名限定 yawa@osaka-musicfarm.net

### ■ENTA! 朗読ライブ vol.2 ~エンがなくちゃね。~

12/9(土) 19:00 前売1500円/当日2000円(1drink付)  
 出演:むらさき、川原慶太郎、洲上もじゃお、窪ワタル

### ■コマイヌシアター

12/23(土・祝) 17:30 1500円+1d  
 出演:コマイナーズ 他

※1d表記のものは500円ドリンクチケットです。  
 ※すべての開場は開演の30分前です。

## 【就労支援カフェBandコクルーム】

### ●ワークショッププログラム

・地図ワークショップ「わたしをたどる」  
 11/15、12/13(すべて水曜日) 19:00 無料  
 講師:横山千秋

・関係ワークショップ「わたしをほくく」  
 11/21、12/19(すべて水曜日) 19:00 無料  
 講師:いわはしゆり(表現教育実践家)

・鍋ワークショップ「わたしをあたためる」  
 12/5(火) 17:00準備 18:00開始 無料(お好みの具材を一品ご持参下されば幸いです)  
 講師:サクライトモイキ(元ニート・ギタリスト)

・声ワークショップ「わたしをひらく」  
 11/22(水) 12/18(月) 19:00 無料  
 講師:上田假奈代(詩家/朗読家)

### ●「仕事」に関するトークサロン

・ハローハローありんこ会議  
 12/17(日) 18:30 無料  
 ホスト:藤井菜摘(アパレルバタンナー)、上田假奈代

・ぼえ茶会 生きる仕事シリーズ  
 11/30(木)「丸太と演劇。物語と一度の人生。」  
 19:00 料金無料 ゲスト:武田一度(劇団犯罪友の会)

12/15(金)「ハッピーライフ。どれも続けたからマイペース」  
 19:00 料金無料 ゲスト:石橋友美(自然人)

1/27(土)「この世の仕事リレートークマラソン」  
 16:00 料金無料  
 日本には3万職種の仕事があるそう。いろんな職業の人たちに登場してもらいます。あなたも話そう。

※就労支援カフェBANDコクルームでは、「ニート」問題に関するアンケート調査を実施中です。皆さんのご意見、ぜひお聞かせください。ご協力お願いします。  
<http://www.efeel.to/survey/cocoroom/>

【就労支援カフェBANDコクルーム:本事業は大阪市がNPO法人こえとことばの部屋に委託して実施しています。】

## 現代芸術創造事業

### ことばち~ことばをともだち

●ことばち対話プロジェクト「こんにちわ委員会」  
 11/17(金)、1/19(金) 19:00 300円  
 あなたも話そう!トークサロン!

## 【cocoroomから飛び出す事業】

### ■詩の学校

講師:上田假奈代 受講料:1000円(筆記用具、ノート持参)  
 @應典院 11/15、12/20 すべて水曜  
 19:30~21:30 単発受講可 tel.06-6771-7641

@京都芸術センター 11/16、12/21 すべて水曜  
 19:00~21:00 単発受講可 tel.075-213-1000

### ■こえとことばのワークショップ in チャッピールーム

11/24、12/8、22(すべて金曜) 13:30 無料 講師:飯島秀司  
 視覚障害者とのワークショップです。  
 会場:視覚障害者リハビリセンターライトハウスジョイフルセンター 大阪市鶴見区今津中2-4-37

### ■科学とアート・ウォーミングアップ企画

#### 「みんなで大阪市立科学館へ行こう!」

世界一のプラネタリウムもあるらしいよ  
 12月10日(日) 13:00 実費  
 集合場所:大阪市立科学館入り口前に13:00集合!  
 案内人:飯島秀司 ほか  
 大阪市立科学館 <http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/>  
 大阪市北区中之島4-2-1 06-6444-5656

### ■シマクマガンホーズ information(飯島/上田のぞ美参加)

<http://homepage2.nifty.com/simgung/>  
 □11/25(土) 会場:船場club Mercury  
 19:00 1500円/2000円(+1d)  
 □12/21(木) 会場:アメリカ村SUNHALL  
 19:00 1500円/1800円(+1d)

## 【こくらく絵本】

2m×3mの巨大ダンボールで紙芝居「こくらく絵本」をつくりましょう。1回だけの参加、遅刻早退オッケーです。無料制作場所及び問合せ:コクルーム  
 制作日:夜の部(19:00から) 11/15(水)、11/22(水)  
 制作日:昼の部(13:00から) 11/15(水)、11/19(日)、11/22(水)、11/26(日)

完成した作品は...

12月3日(日) 15:00~ 無料 「こくらく絵本」即興大紙芝居公演「ひと・アート・まち おおさか~アートで極楽~」プロジェクトで展示・実演されます。  
 展示:12月1日(金)~8日(金) 場所:一心寺・南会所  
 紙芝居劇実演:12月3日(日) 15:00ころを予定  
 紙芝居劇パフォーマンス 参加者大募集!!  
 参加希望の方は 13:30~ 一心寺南会所 無料  
 小道具や楽器などの持参も歓迎!

主催:近畿労働金庫 企画:財団法人たんぽぽの家

## 【ピックアップ】

### ■上田假奈代生誕37周年記念祭

「言葉合同会社お披露目」~姉妹で会社を作ったの~/「エンディング・ノート(遺言みたいなの)WS」~突然死んだりしたら葬式とか困るでしょ~  
 12/1(金) 19:30 参加費未定  
 コクルーム集合! ※筆記用具持参

# cocoroom cafe information

上田のぞ美

cocoroom cafeの「まかないごはん」は、600円の定食で、その時あるものによって献立も変わっちゃうという、作る側も食べる側も冒険的なメニューです。ここでは、日々まかない作りから生まれた、簡単だけどおいしいレシピを紹介します。

料理名<ドイツ>

材料:  
 鶏肉、じゃがいも、玉ねぎ、ほかに人参やキャベツなど残り野菜、トマト水煮缶、ピザ用チーズ、にんにく

作り方:  
 1 じゃがいもは皮をむき、適当な大きさに切り、レンジでチンしておく。  
 2 肉、野菜を適当な大きさに切っておく。  
 3 にんにくをみじん切りにしてオリーブ油で炒め、玉ねぎを弱火でしんなりするまで炒める。肉を投入し、肉に火がとおったら、じゃがいもとほかの野菜も投入。トマト水煮缶を入れて潰し混ぜる。塩こしょう、隠し味にしょうゆをたらし、お皿に盛って上からチーズをかける。あればバセリのみじん切りもね。

備考:  
 じゃがいもの洋風煮込みだからという安易なネーミングです。  
 鶏肉は、豚肉かういunnerでも。トマト水煮缶は、生トマトでも。なければケチャップで代用。ごはんにかけてドイツ丼もおいしいよ。

## ★cocoroom cafe NEWS!!

夏季限定だったしそジュースが好評につき、引き続き販売中です。  
 ホットしそ(300円)、しそカクテル(500円)もおすすめ!

カフェスタッフ  
 いつも募集中







### cocoroomでは、寄付をつのっています。

運営のための寄付をつのっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。3000円/1口 何口でも結構です。

宮前の人様 カフェに来たおしいちゃん 山下理香様 吉井さん ありがとうございます。

三井住友銀行 天王寺駅前支店 普通1585265  
トクティエイリカツドウホウジンコトバココロノハヤ

郵便振替 記号01090-5-48059  
ココルーム



特定非営利活動法人こえとことばの会 部屋



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36  
フェスティバルゲート4F  
tel.06-6636-1612 tel&fax. 06-6636-1662  
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>

- ※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
- ※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
- ※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
- ※南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
- ※阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ
- ※駐車場(有料)

■新世界アツパーク <http://www.sap-s.jp>

パートナー依頼/ココルームでフライヤーやフリーペーパー配布協力いたします。また、「ぼえ犬通信」を配布させていただけるお店の方、ご連絡下さい。